



で、2カ月に一回の「ご寄附を5年間にわたり続けてくださる方にもいます。50回ものご寄附を重ねてくださる方には、受領証に同封するお礼状に心を込めたお札の言葉を添えることでしか感謝の気持ちをお伝えすることができます。「広範囲でまた厳しい自然環境の中、善意の方々により緑が着実に再生されているのが嬉しい限りです」とお手紙をくださる方もいます。一定額以上ご寄附くださった方の銘板を掲示した防風垣は、約200mにも連なり(5)、プロジェクト開始から8年経過した今でも変わらずご支援くださる企業、団体、個人の方々に心より感謝申し上げます。

18年度末までに7億5千9万円のご寄附をいただき、その中

プロジェクト始動から8年が経過し、現場は次のステージへと移行しつつあります。最盛期、育苗場にはコンテナ8300台が整然と並び、20万本の苗木が育つ姿が見られました(写真①)。苗木への水やりに名取市海岸林再生の会のメンバーがたっぷり4時間費していました。

2018年は約16haへの植栽を行い、14年からの累計は約67ha。これまで約35万本の苗木を出荷したことになります。震災前に松林のあった場所への植栽はほとんど完了したため、育苗場には20年に植栽予定の6ha分の苗木を残すのみとなり、その面積は最盛期の約4分の一に縮小しています(②)。ボランティアも動員して育苗場の除草を行った日々は、過ぎし日の思い出となっています。

クロマツは元々の基盤に2・4m以上かさ上げした盛土の上

に植栽しています。盛土の土は複数の場所から運んでいます。粘土質、砂礫、山砂などさまざまです。東京大学名誉教授の太田猛彦先生が「月面に木を植えるようなもの」と例えた無機質な土壤の盛土もありますが、この場所に植えたクロマツは、同年植栽した別の盛土の苗より成長しく、最高樹高4mに到達しました。森林総合研究所の掘削による土壤調査で、この土壤は透水性が良好であることが判明し、多湿を極端に嫌うクロマツには貧栄養でありながらも成育にはよい土壤だったようです。

根元の幹の径は約10cmに成長し、1・3m間隔で植えた隣の木の枝と交差して地面が見えない状態にまで繁茂しています。当初の想定より成長スピードが速く、数年先から本格的に本数調整伐(間伐)が必要になると予想されます。

また、クロマツ苗を寒風や乾風から守ってきた防風垣は所々朽ちはじめ、クロマツがそのまま大きくなっています(③)。植栽から5年、クロマツが育ち、有機物が増えた箇所は、撤去されることになりました(④)。

これまでプロジェクトへご寄附くださった方は企業、団体、個人を含め1984件。しかしこれまでプロジェクトへご寄附の数は、企業や団体を通じて、貴重なトンボの存在も確認でき、生物多様性の豊かな森へと変化しつつあります(⑤)。

現場は着実に変化していく一方で、変わらぬ一面もあります。これまでプロジェクトへご寄附された数は、企業や団体を通じて、貴重なトンボの存在も確認でき、生物多様性の豊かな森へと変化しつつあります(④)。

これまでプロジェクトへご寄附された箇所は、撤去されることになりました(③)。植栽から5年、クロマツが育ち、有機物が増えた100haの林地内は動物の棲み処となり、キツネの巣穴が十数ヵ所、タヌキやイタチ、クマなどが生息しています。また、海岸線を守るために設置された防風垣は所々朽ちはじめ、クロマツがそのまま大きくなっています(③)。植栽から5年、クロマツが育ち、有機物が増えた100haの林地内は動物の棲み処となり、キツネの巣穴が十数ヵ所、タヌキやイタチ、クマなどが生息しています。また、海岸線を守るために設置された防風垣は所々朽ちはじめ、クロマツがそのまま大きくなっています(③)。植栽から5年、

から21年度以降の管理費用として約3億円の積み立てを目指しています。10カ年計画のプロジェクトは20年度に一区切りを迎えますが、翌年度以降はこの積立金を活用しつつ、保育管理を進めていく予定です。また19年3月には、宮城県が主体となり、海岸林を有する県内の市町村とオイスカなどの民間団体が参加し、海岸防災林の今後の管理体制について検討する「防災林検討会」が発足しました。2年間の準備期間の後に「協議会」が発足する計画です。

21年3月でプロジェクトへの寄附受付は終了の予定ですが、人々の暮らしや命を守る海岸防災林として成林するまで、変わらず見守っていただけるよう担当者一同努力してまいります。

21年3月でプロジェクトへの寄附受付は終了の予定ですが、人々の暮らしや命を守る海岸防災林として成林するまで、変わらず見守っていただけるよう担当者一同努力してまいります。

※前年度までの雇用数の実績に誤りがありましたので、本表にて修正しました

#### 〈2018年活動実績〉

	内 容	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	累計
	クロマツなど播種数	—	97,500	72,500	87,250	89,856	96,400	57,000	45,800	546,306粒
	植栽面積	—	—	—	15.67	10.06	11.00	13.66	16.32	66.71ha
	植栽本数	—	—	—	80,182	55,084	56,037	71,945	81,600	344,848本
	育苗・造林・育林における雇用数	—	187	658	1,402	1,150	1,274	1,469	1,329	7,469人
	現場ボランティア数	—	—	262	1,365	1,691	1,800	2,096	2,273	9,487人
	現場視察者数	263	580	837	567	577	168	231	132	3,355人
	活動報告会開催数	4	43	28	30	30	26	30	20	211回
	活動報告会参加者数	523	4,772	5,900	4,692	4,996	3,893	5,911	4,178	34,865人
	国内新聞・雑誌・テレビ・ラジオなど紹介回数	24	39	27	33	38	20	23	21	225回

※前年度までの雇用数の実績に誤りがありましたので、本表にて修正しました

#### 〈2018年収支報告〉

項目	内 容	2018		累計(2011年~)
		収入	支出	
募金・寄附金など	一般寄附金など	86,813,480	658,361,653	
民間助成金	「新しい東北」官民連携推進協議会、トヨタ環境活動助成プログラム	3,064,510	46,830,254	
前期繰越金		13,537,666		
合計		103,415,656	705,191,907	
育苗事業	「名取市海岸林再生の会」への育苗事業委託、資機材購入、研修実施等	9,523,351	145,729,993	
造林・育林事業	宮城中央森林組合への植栽・施肥・下刈り・除伐委託等	45,501,598	175,475,776	
調査事業	Eco-DRR調査※1、モニタリング調査、将来ビジョン形成調査等	1,179,173	11,261,871	
啓発普及事業	活動報告会、視察会、支援者コミュニケーション等	14,022,691	91,030,007	
支出総額		70,226,813	423,497,647	
次期繰越金		33,188,843	33,188,843	
特定費用準備資金※2	2033年までの長期育林費用として	0	248,505,417	
合計		103,415,656	705,191,907	

※1: 森林など生態系を活用した防災・減災

※2: 公益法人が、実施期間や内容などが明確な事業に対し、将来の計画的な実施のために積み立てる資金のこと。

内閣府に提出した計画に基づいて積み立てられます



## 特集

### 「海岸林再生プロジェクト10カ年計画」

# プロジェクトの変遷、そしてこれから

名取市の海岸線約5kmほぼ全景(林野庁東北森林管理局仙台森林管理署提供／一部加工)